

2024年1月吉日

株式会社 羽車 企画広報部

---

## 50年前の印刷機がフル稼働 デジタル時代に求められる レトロな活版印刷

---

企業依頼が多いアナログ加工、人気の理由は「感性に届く」



株式会社 羽車（本社：大阪府堺市 代表 杉浦正樹）は、名刺・封筒・パッケージなど、企業向け紙製品の老舗メーカーです。企業のブランディングを支援するデザイン性が高い紙製品を提案・製造する中で、「古い機械」から生まれるあたたかみある紙製品が好調。デジタル時代にあえてアナログな風合いのオリジナルオーダー紙製品を提供しています。

### 企業から人気 アナログ感のある活版印刷

デジタル全盛の時代にあっても、羽車は昔ながらの印刷技術である活版印刷（レタープレス）を提供し続けています。この数年の、昭和・平成レトロブームのなか活版印刷の人気は衰えることなく、個人だけでなく多くの企業からも依頼をいただいています。



活版印刷の名刺・ショップカード・パッケージ

ぐっと圧をかけて印刷するため、厚みのある柔らかい紙と相性がよい。手作業で一枚一枚印刷したようなアナログ感があり、思わず触ってみたいくなる温かみのある表情が特徴。

## 活版印刷とは

活版印刷は、活字を組んだ凸版にインクをのせ、垂直に圧をかけるハンコの原理の印刷方法で、世界三大発明の一つ（1450年頃 グーテンベルク（独））。日本では1960～70年代まで主要な印刷手法でしたが、その後オフセット印刷などが台頭し衰退。しかし1900年頃より、デジタルデータから樹脂の印刷版を作成し、イラストやロゴなど自由なデザインを印刷して楽しむ「レタープレス」がアメリカ東海岸で流行。日本を含め世界に広がりました。羽車では、この樹脂版による活版印刷（レタープレス）を採用しています。

## 魅力は「感性に訴えるレトロなあたたかみ」

活版印刷は、紙や書体にこだわる個人ユーザーに大変人気があります。そのあたたかみは今も変わることなく、個人のセンスを引き立てます。そして同じように**多くの企業が、名刺、案内状、パッケージ等に活版印刷を活用し、カスタムオーダーの販促品や商品パッケージ等に利用しています。**

活版印刷機は現在製造されていないため、50年以上前のマシンしか存在しません。シンプルな構造で人の感覚によるアナログな調整が必要です。経験豊かなスタッフが、紙の素材や印刷内容によって微妙な調整をしていますが、インクの濃度や圧の違いによってインクのムラや凹みの強弱が生まれるため、常に同じ仕上がりににはなりません。

お客様は、**デジタルとは異なる「感覚的な心地よさの価値」を求めてご利用いただいています。**

## お客様の声

パッケージ注文のお客様：

「活版印刷の凸凹感に味わいがあってお気に入りです」（洋菓子販売）

「ぐっと押された力強い加工はクラフトっぽく「カッコいい」という印象を受けます」（宿泊業）

名刺注文のお客様：

「紙や印刷の手触り、温もりを大切にしたいくて活版を選びました」（デザイン会社）

「名刺をお渡しすると、印刷面の微妙な凸凹に触れる方が多く、そこから会話が生まれています。

あたたかみがお客様に伝わっていると感じています」（アパレル雑貨販売）

制作例ギャラリー（お客様の作品）活版印刷 682件  
（2024年1月現在）



## 17年前から始まった、羽車の活版印刷

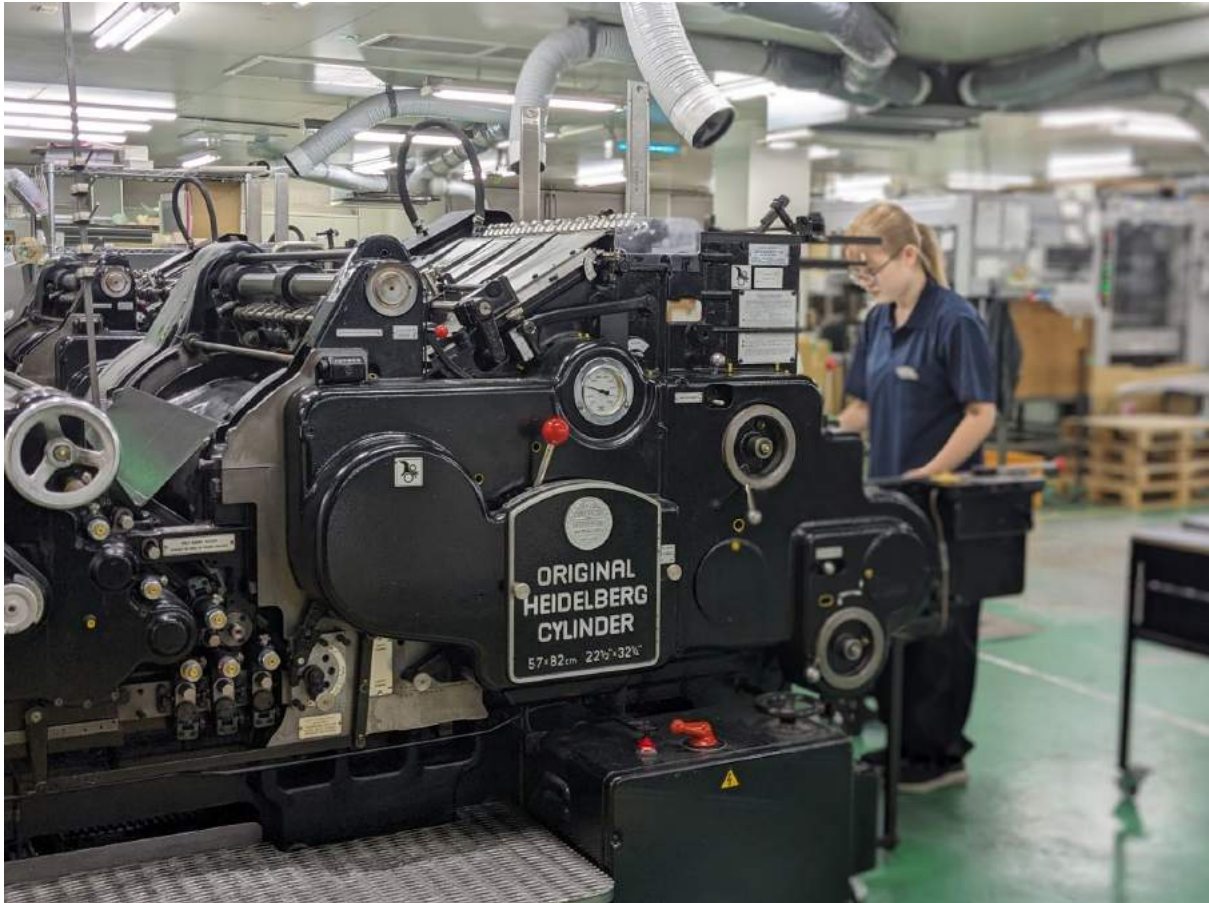
羽車では、2006年より活版印刷のサービスを提供しています。それまで活版印刷機はありませんでしたが、廃業される印刷会社より活版歴50年超の職人さんが愛着ある活版印刷機とともに入社。印刷担当スタッフはいちから活版印刷を教わりながらスタートしました。



プラテン機と呼ばれる活版印刷機は15台。女性を含む20代～50代のスタッフ15名がアナログ加工を担当しています。

一台、また一台と活版印刷機が増えスタッフの技術も向上。職人の技術と機械の充実とともに、多くの人々が気軽に活版印刷を楽しめる環境を整えてきました。活版印刷機は50年～60年前の機械ですが、一旦解体・オーバーホール後、再び組み上げることで新品に近い状態のパフォーマンスが可能。一部ユニットを付けかえれば、箔押し加工やダイカット（くり抜き加工）加工機にもなる、汎用性の高い機械であることも魅力です。

弊社には最新のデジタル印刷機もありますが、数年で新機種への変更が必要です。長く使い続けることができる活版印刷機は、ものを大切に長く使うという点で非常に優れていて、環境に優しい側面もあります。現在は、A3サイズまで印刷できるプラテン機（垂直に圧をかける活版印刷機）15台、大型のシリンダー式の印刷機4台が稼働中。



シリンダー式の活版印刷機 大判の紙を印刷できるため、主に企業向けに活用。円圧（cylinder press）で接触するので、広い面積でも均等に凹みが表現できる。ブラックの塗装とシリンダーが力強く駆動するさまは機関車のような。重量は5.5トン、車一台分よりも重い機械。

### これから

紙製品は、大量に使うものから、質感のある感性に訴えるものへと変化してきています。弊社は、**旧来からの活版印刷のあたたかみと共に、最新のデジタル印刷機や箔押し加工の技術も積極的に取り入れています**ので、お客様のブランディングに寄与する紙製品を提案し続けてまいります。

是非報道のお力で、弊社の取り組みをお届けいただけますと幸いです。  
ご検討のほどよろしくお願いいたします。

【お問い合わせ先】

株式会社 羽車（ハグルマ）

本社住所：大阪府堺市東区八下町3-50

担当者：企画広報部 永田 留美 柳 朋美

TEL：072-251-2211 E-mail：pr@haguruma.co.jp

【企業情報】

株式会社 羽車（ハグルマ）

主に企業向けに封筒・カード・パッケージなどの紙製品を製造販売している老舗の封筒メーカー。環境に配慮し風合いも楽しめるオリジナル紙素材を開発。色や質感に特徴のある紙製品に、職人による温かみのある印刷加工を加えたカスタマイズサービスを展開している。1918年（大正7年）創業、今年10月に105周年を迎える。

商号：株式会社羽車  
代表者：代表取締役 杉浦正樹  
所在地：〒599-8101 大阪府堺市東区八下町3-50  
創業：1918年10月  
設立：1936年1月  
社員数：160名  
事業内容：封筒・紙製品の企画・製造・販売、  
インターネットによる通信販売  
URL：<https://www.haguruma.co.jp/>



HAGURUMA STORE（ハグルマストア）

<https://www.haguruma.co.jp/store>

Instagram：@haguruma1918